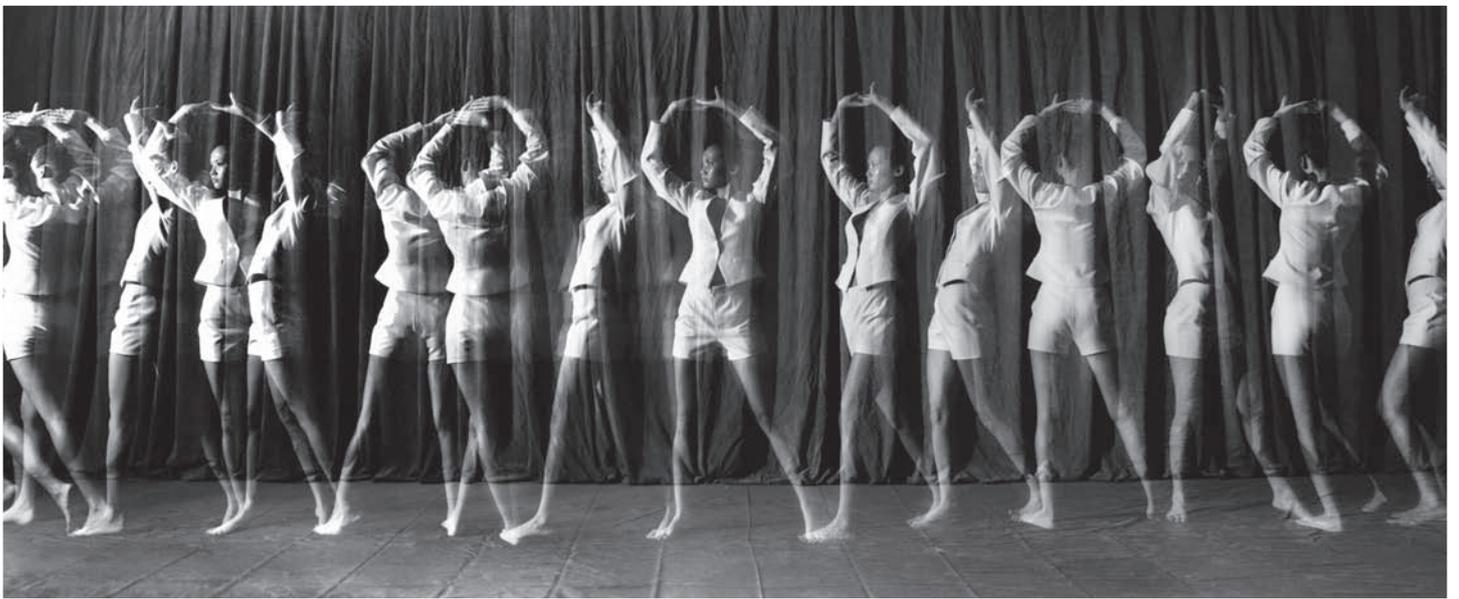


# 学内広報

for communication across the UT



特集： ■ Todai Forum 2011 フランスで「知の際」に迫る  
■ 2011 東京大学ホームカミングデイの楽しみ方

2011.9.26

No. 1416

9月28日から10月26日まで、フランスのパリ、リヨンにて東大フォーラム2011が開催されます。第8回目となる今年は、多くの部局が参加し、過去最大の規模となっています。そんな東大フォーラムを一つ早く紙面でご紹介します。

東大フォーラムHP : <http://forum.dir.u-tokyo.ac.jp/>

## 東大フォーラムとは

東大フォーラムは、東京大学が優れた学術研究を広く海外に発信するとともに、海外主要地における研究交流・学生交流を進展させることを目的として、世界中で継続的に開催しているイベントシリーズです。その運営は、各国の大学や学術組織の協賛のもとで開催されています。

日本と世界の研究者、学生が国の枠組みを越えて密接に対話をおこなう絶好の機会であり、大会ごとに掲げられるテーマに対して、異なった立場や学問分野に立つ研究者たちが、多角的、学際的にアプローチしていくことが特色です。

今回の東大フォーラムは、「知の際(きわ)」(Aux frontières de la connaissance)を総合キーワードに、シンポジウム、フォーラム、留学説明会など、多くのイベントを通じて、東京大学の最先端の研究成果を発信していきます。

## これまでの東大フォーラム

東大フォーラム  
 これまでの開催地

- 第1・2回 アメリカ
- 第3回 シンガポール
- 第4回 スウェーデン
- 第5回 中国
- 第6回 韓国
- 第7回 イギリス



東大フォーラムは旧称・UTフォーラムとして、第1回目はアメリカ・マサチューセッツ州マサチューセッツ工科大学、第2回目はカリフォルニア州スタンフォード大学、カリフォルニア大学サンフランシスコ校で開催されました。その後、およそ2年おきに、シンガポール、スウェーデン(ストックホルム・ウプサラ)、中国(北京)、韓国(ソウル)にて開催されました。本学の海外での略称を“Todai”とするにあたり、第7回目より東大フォーラムと改称され、イギリスにて、ケンブリッジ大学やインペリアルカレッジ・ロンドン等の機関をパートナーに迎え開催されました。テーマは“Human Security and Business: Focusing on Conflicts: Movement of People and Governance”, “Role of Nuclear Energy for Sustainable Development; Harmonization of nuclear utilization with society”, “Disability and Economy: Creating a Society for All”の3つでした。

## 東京大学とフランス ～ヨーロッパ最大の交流実績！～

少し意外に思われるかもしれませんが、フランスと本学の間の交流は非常に盛んです。フランスから本学への留学生の数は37名。ドイツやスウェーデンを上回り、実はヨーロッパの中で一番です！理系はもちろん、文系にも留学生が多いのが特徴です。フランス国籍の教職員も25名在籍しています。また、本学からフランスへ留学している学生は47名。ドイツやイギリスを上回りこちらもヨーロッパで最大の実績です。

また、フランスとの国際交流協定締結校は37校にのぼり、うち全学協定を結んでいるのは10校。これもヨーロッパで一番です。例えば生産技術研究所とフランス国立科学研究センター(CNRS)との間には1995年に日仏共同研究室LIMMSが設置され、国際的な研究を推進しています。創設以来90名余りのフランス人研究員を受け入れた実績を受け、LIMMSアラムナイ(LIMMS同窓会)が設立され、今回の東大フォーラム開催中に発足式や記念講演会が行われる予定です。(※データは2011年5月現在)

お問い合わせ先： 本部国際企画課(内線：22427 東大フォーラムに関して)  
 本部広報課(内線：82032 紙面に関して)

## Workshops & Meetings in Paris



17 October  
 プレナリーセッション- Conceiving the Future

18 October  
 危機とガバナンス(公共政策大学院)

LIMMS/CNRS-IIS同窓会ネットワーク設立記念講演会「国際共同研究によるイノベーションの創出」(生産技術研究所)

生命システム・ゲノム医科学フォーラム  
 感染と免疫：感染症制御-未来に向けて-  
 (医科学研究所、分子細胞生物学研究所、新領域創成科学研究科)  
 次世代パーチャルリアリティ(情報理工学系研究科)

翻訳と思想の地理学-中国、ヨーロッパ、日本  
 (総合文化研究科(UTCP))

工学教育の将来像について-東日本大震災を受けて-  
 (工学系研究科)

18-19 October  
 プレート沈み込みと火山活動についての合同ワークショップ  
 (地震研究所)

21 October  
 留学説明会(国際本部)

24-26 October  
 天体物理にかかわる国際会議(理学系研究科)

## Workshops & Meetings in Lyon



19 October  
 プレナリーセッション- Imagining the Future

16-18 October  
 幾何学とダイナミクス(数理科学研究科)

18 October  
 アート&サイエンス-大学博物館の実験(総合研究博物館)

20 October  
 健康管理のためのウェアラブル情報システム  
 (工学系研究科・新領域創成科学研究科)

ナノテクノロジー(工学系研究科)  
 日仏間の産学連携の違い(東大TL0)  
 都市計画(生産技術研究所)

International Mobilityセッション・留学説明会(国際本部)

20-21 October  
 生命システム・ゲノム医科学フォーラム ホルモンレセプターと細胞内シグナル伝達-ゲノムから臨床へ(医科学研究所、分子細胞生物学研究所、新領域創成科学研究科)

世界史の文脈で考える地域史(東洋文化研究所)  
 地球科学とソフトマター物理の接点から探る新たな研究の地平線  
 (地震研究所)

21 October  
 アジアにおける地域主義の出現に伴う日本の役割  
 (社会科学研究所)

22 October  
 日本のメディア文化: カタストロフィとメディア(情報学環)

# 「知の際」に迫る

東大フォーラム2011は、コレージュ・ド・フランス、CNRS：フランス国立科学研究センター、リヨン市、リヨン大学コンソーシアム（ENS Lyon：リヨン高等師範学校、INSA Lyon：国立応用科学院リヨン校他）をはじめとする、約20の提携組織の協賛で開催しています。



## features

### 総合研究博物館

**上田義彦写真展『Cabinet de Curiosités』**  
9月29日（木） - 10月22日（土）  
**『Anthropometria - Mode et Science  
par UMUT et Naoki Takizawa』展**  
10月18日（火）～2012年1月8日（日）  
**『Jadis le Japon』展**  
10月11日（火）～30日（日）



撮影者未詳、島津忠義肖像、鴉卵紙写真、年代未詳。写真提供：クリスチャン・ボラック コレクション

総合研究博物館ではリヨンにて三つの展示を開催します。「驚異の部屋-上田義彦のマニエリスム博物館」展では、学内に蓄積されてきた学術標本を写真家上田義彦が個性的に捉えた作品を紹介いたします。「アントロポメトリア」展では、数理模型を元にデザイナー滝沢直己と共同制作した実験モード作品とそのパターンを中心に、「人体測定」をテーマにした展示を行います。また、リヨン市役所前の屋外展示では、主に外国人が撮影した幕末維新期の古写真をパネル式で展開します。

## features

### 生命システム・ゲノム医科学フォーラム

医学研究所、分子細胞生物学研究所、新領域創成科学研究科は、パスツール研究所（パリ）とリヨン高等師範学校（リヨン）においてフォーラムを開催します。パリでは「感染と免疫」、リヨンでは「ホルモン受容体と細胞内シグナル」をテーマとして研究交流を図ります。それぞれの領域で国際的に高く評価されている研究機関での開催は、大変意義深いものであり、本学さらには日本での当該研究分野の発展に寄与することが期待されます。

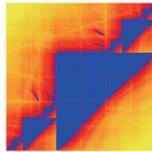
またリヨンでの学生セッションは、両国の学生が企画・運営するものであり、将来の研究者達にとっての貴重な鍛錬の場となると同時に、両国の研究交流を活発化する上で重要な位置を占めるものとなるでしょう。

## features

### 幾何学とダイナミクス

無限群作用のダイナミクス、ダイナミクスの対称性、群作用の不変量、群作用の安定性、変形と剛性、無限離散群の幾何学、空間の位相とダイナミクスなどについて、東京大学、リヨン高等師範学校他の研究者による講演を行い、質疑応答の中でこれまでの研究の到達点を共有するとともにこれからの研究の方向をさぐります。

リヨン高等師範学校との全学協定を結んだのは3年前ですが、数理科学研究科が発足して以来、教育研究上の交流をしています。世界の数学の現在がわかる講演が予定されています。



区分線形写像ダイナミクスのパラメータ空間

## features

### 世界史の文脈で考える地域史

10年来協力関係にあるリヨン大学の東アジア研究所と組んで、歴史学研究の伝統をもつフランスで、新しい世界史の描き方について話し合います。同じテーマについて、現役研究者と若手（PD研究員と博士課程学生）が、それぞれのセッションで意見を交わします。二つの会合の結論に違いが出るのかどうか興味深い点です。東洋文化研究所が積極的に交流を進めている中国の復旦大学文史研究院からも、2人の研究者が議論に加わる予定です。



復旦大学における歴史研究会

## features

### 東大留学説明会（Todai Study Fair）

20日にリヨン、21日にパリで留学説明会を開催します。東大フォーラムでの開催は初の試みです。東大の最先端の研究に触れる会場で、東大に関心のある学生に向けて教職員や留学経験のある学生から直接話を聞くことができる機会を設けます。いずれも講演形式での東大の紹介とブース形式での留学相談の二部構成。東大紹介では、概要に始まり、本学6部局の教員による部局紹介が行われます。留学相談では、本学の教職員等が東大留学に関する疑問に答えます。



昨年度タイで行われた留学フェアの様子

## 東大フォーラム2011実行委員会委員長 情報学環長 石田 英敬教授に聞く



### 機が熟してのフランス開催

東大フォーラム2011は、空前の規模になる予定です。今までの東大フォーラムをどう全学的なものにするか意識的に追求しました。なぜフランスで開催することになったかという、一つはフランス国内の流れがあります。1968年の五月革命以降フランスの大学は都市単位で小さなナンバースクールに分割されてきましたが、最近の傾向として、グローバルな競争の中で、再編して大きな極にまとまるという動きがあります。今回の開催地のリオンはフランスでいち早く全高等教育機関を一つにまとめることができた都市です。その関係者たちから、ぜひ世界の有力大学である東大と手を組みたいと、熱烈なラブコールがあったのです。近代学問の本場でありヨーロッパを体現しているフランスは、相手として最適だと私達も判断しました。さらに、首都パリでは16世紀からあるコレージュ・ド・フランスという、フランス知識界の最も中心的な学術機関と手を組むことができました。ここは最高の教授陣たちを揃えて、あらゆる人に開かれた場所で最先端の研究を講義している機関です。さらにもう一つ、東大の研究パートナーである全国組織CNRS（フランス国立科学研究センター）も協力をしてくれ、最高の組み合わせでフランスでの東大フォーラムを計画できたのです。

### 「知の際」

今回のテーマは「知の際」です。日本語の「際（きわ）」というのは多義的で面白い言葉です。学問を際めるといふ「際」、フロンティアを拓いて国際的に出会うという意味の「際」、「学際」のInterに当たる「際」や、世界的な競争のなかでそれぞれ「際立とう」とするExcellenceという意味など、様々な意味を読み込みました。かつて日本文化における「粋（いき）」や「間（ま）」という概念が国際的にも論じられるようになりまして、今回の東大フォーラムでは、「際」という概念を世界に向かって提案したい。この言葉、フランスでも流行らせたいですね。じっさいに、フランスではみんなもう「Qu'est-ce que le kiwa?」（「際とは何か?」）なんて議論し始めているんです（笑）。

「際」には語源的に「限界(Limit)」という意味もあります。世界が直線的に世界化していくグローバル化はすでにLimitに到達している。知のLimitを極めることは人間や生命のLimitにふれることでもある。現在の学問は、このように、「際」をキーワードにで言い表せる状況にあると思うのです。だから、今日、「知の際」について国際的に議論することは世界の大学、研究者にとって普遍的な問いを共有することでもあるのです。

### 学問の未来、東大の未来

2つのプレナリーでは、「未来」をテーマにしました。「際」を出発点に、「未来」をどう考え、イメージするかというテーマで対話します。震災が世界でも広く報道され、それを学問的にどう受け止めるかという点は、分科会でも議論されると思いますが、企画全体の通奏低音にもなると思います。われわれの「未来」を考え、デザインし、イメージするためにそれは避けて通れない、そこを起点にして考えなくてはいけないことの一つですね。

日頃、東大の人は自分たちの部局については、どんな国際的な連携先と研究しているということは知っているでしょうが、東大全体の国際展開のことはよく知らなかったりする。大学の学術活動を一度に全体的に俯瞰する機会がないと、東大の活動の国際的な広がり、自分たちの大学としての姿が、外にはもちろん自分たち構成員にも見えないじゃないですか。大学もグローバルプレーヤーでなければならぬ時代だから、自分の大学の国際的自画像というもののイメージを持ち、人にも語れる必要がある。東大の研究の拡がりや国際的な鏡に映してみる機会の一つに東大フォーラムがなればいいと思います。ひとつひとつそれぞれ力のある研究ですが、まとめてみて一斉に花開くと、フラワーガーデンとしての全体的な知の華やぎが見えるのだと思うのです。こうした大規模な催しを開催できる大学は世界にも多くあるわけではなく、今回のような経験を重ねていけば、国際的な評価をますます高めることになると思います。

# 特集

## 2011東京大学 ホームカミングデイの楽しみ方

それぞれの「東京大学」を見つめなおす一日

第10回目を迎える東大ホームカミングデイ。今年には人気企画「特別フォーラム」の他、若手卒業生のグループが企画する「UTfestival」※や本郷地区商店街とのコラボなど、ご家族で楽しめる企画が盛りだくさんです。卒業生・在校生の皆様はもちろん、教職員の皆様、ご友人、ご家族をお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

- ◆日時: 2011年10月29日(土) 10:00~
- ◆場所: 東京大学本郷キャンパス/駒場キャンパス
- ◆受付: 本郷キャンパス...正門、赤門、安田講堂  
駒場キャンパス...正門

入場  
無料

事前申込  
不要

\*一部イベントには事前にお申込みが必要なものもございます。

※UTfestival

ホームカミングデイに合わせ、幅広い卒業生に東大に戻ってきてもらおうと、若手卒業生が企画しているイベント。 <http://ut-festival.todai-alumni.jp/>



### 本郷いちよう芸術祭@安田講堂

10:00~12:00

管弦楽・合唱団など現役学生のサークルやOBが安田講堂の舞台に立ちます。

### 特別フォーラム@安田講堂

「世界で学ぶ、働く、生きる」 12:30~15:00

【キーノートスピーカー】

浜田宏一 イェール大学教授

【パネリスト】

赤地葉子 世界基金テクニカル・オフィサー

土井香苗 ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表

野口聡一 JAXA宇宙飛行士

水越 豊 ポストコンサルティンググループ日本代表

東大卒業生の「国際市場における価値」「競争力」とは？世界で活躍される皆様に、自らの経験をもとに語っていただきます。



浜田宏一氏  
(’88法卒・’60経卒)



赤地葉子氏  
(’01業卒)



土井香苗氏  
(’98法卒)



野口聡一氏  
(’91工・修士修了)



水越 豊氏  
(’79経卒)

### 卒業生交流会 ~東大卒流・新しい家族のあり方@工2号館

11:00~12:30

仕事にける思い、子育てと仕事との両立など、これから結婚や出産、海外赴任などのライフイベントを迎える若手卒業生とそうしたライフイベントを経験した卒業生の交流・意見交換会です。

### 同級生対談 @工2号館

14:00~15:30

「この人とこの人が同級生だったの？」小林りん 軽井沢インターナショナルスクール設立準備財団代表理事、平井要一朗 ザッパラス取締役等が登場予定!

### 熱中講義@法文1号館・工2号館

東大が誇る教授陣。大学時代はありがたみに気づかず、卒業してから、「あんな第一人者がいたのに」「きちんと聞いておけばよかった」と思ったことはありませんか？小宮山前総長、教育学部の本田先生の特別講義です。

14:00~15:00本田由紀先生

「教育・家庭・仕事~戦後日本型モデルの変容」

15:30~16:30小宮山宏先生

「知識の構造化~資源自給社会を考える」



本田由紀先生



小宮山宏先生

### 東大落語会寄席 @法文1号館

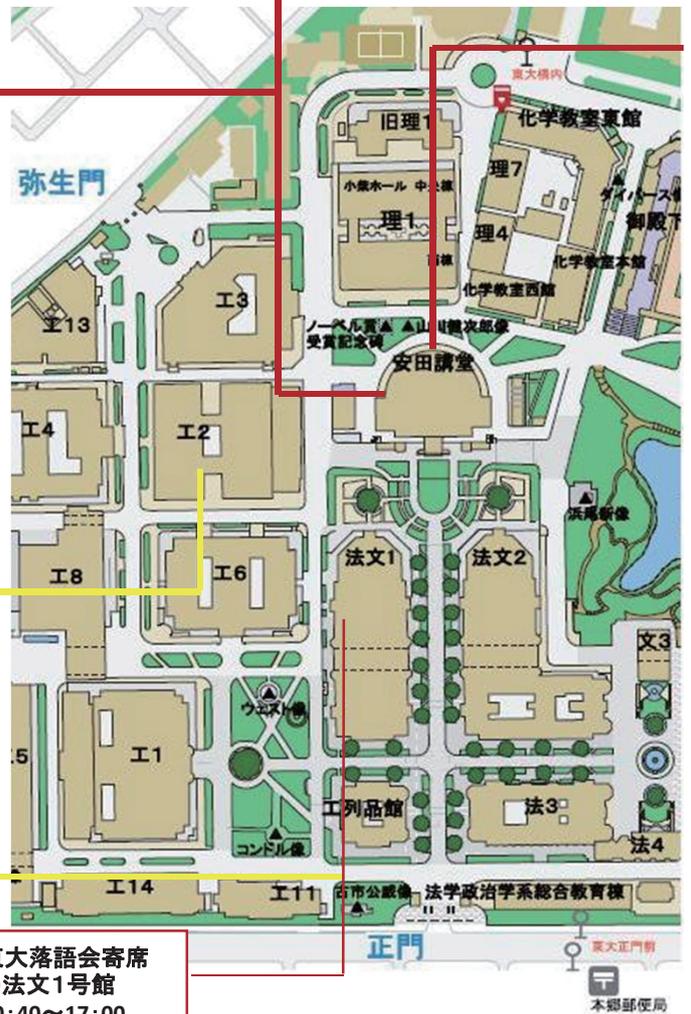
10:40~17:00

ベテランから若手まで、落語の演目をご堪能ください。



### 銀杏並木にピアガーデンも

銀杏並木に屋台が登場。本郷商店街の皆さんが飲食の提供をさせていただきます。エンタメ企画では東大発バンドやダンスサークルなど懐かしの公演も復活!



※  は大学本部企画  
 はUTfestival企画

**30周年学年会・  
20周年学年会  
@中央食堂**

16:00~18:00  
学生時代をとも過ごした彼等は今どうしているのでしょうか。旧交を温めるいい機会です。意外にビジネスシーンで近くにいるかもしれません。

**大クラス会@中央食堂 15:00~17:00**

久しぶりにクラスで集まろう！  
サークルや部活は定期的にOB会がありますが、駒場のクラスや学科ではなかなか集まる機会がありませんよね。せっかくなのでホームカミングデイの日にみんなで集まってクラス会をやりませんか？  
『仮申込フォーム』 <http://ut-festival.com/form/>

**キャンパスツアー 10:40~**

学生ガイドが赤門や三四郎池などの名所を案内。



**少年少女サッカー教室**

**@御殿下グラウンド 10:00~11:30**  
東大LB会(ア式蹴球部のOB会)主催。御殿下グラウンドで40年以上続くサッカー教室。

**第2回インターナショナルアラムナイフォーラム**

**@山上会館 16:00~18:30**

外国人同窓生や外国人教職員の方々と、大学との緊密な連携を図る事が目的です。昨年は80名を超える参加者があり、大成功を収めました。今年は濱田総長を迎えて開催。外国人同窓生ならびに外国人教職員の方々は奮ってご参加ください。



**東大ワールドカフェ  
@医学系教育研究棟  
13階第6セミナー室**

15:30~17:00  
テーマ「世界で学ぶ、働く、生きる」  
業種、世代を超えた卒業生たちが建設的に対話し交流する人気のプログラム「東大ワールドカフェ」。スペシャルゲストに浜田宏一イェール大学教授、水越豊ボストンコンサルティンググループ日本代表、土井香苗ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表を予定しています。

**NHK小野文恵アナウンサー講演会  
「聞いてガッテン? テレビの舞台裏」  
@経済6番教室 14:00~15:30**  
東大女子同窓会さつき会主催



**「懐徳館」一般公開  
茶道部お茶会 10:00~16:00**

東大の迎賓館「懐徳館」を一般公開します。紅葉豊かな樹木と庭園を眺めながら、茶道部のおもてなしで、楽しい時間をお過ごしください。





# 第10回ホームカミングデイ各部署イベント 9月8日現在



部局名	内容	名称と詳細	時間	場所
法学部	講演会	飯田敬輔教授講演「変貌する国際経済秩序——自由貿易体制・ドル基軸通貨体制の来し方・行く末」	16:00～17:00	法文1号館 22番教室
医学部	講演会及び展示	検討中		
工学部	講演会、施設見学及び懇談会	講演会: 寺田 弘司 氏、十倉 好紀 氏	14:30～	工学部6号館内
	展示及び顕微鏡による観察	テーマ: 未来医療のためのマイクロナノマシンと医療ロボット 内容: 実物、ポスター、顕微鏡による観察	10:00～17:00	工学部6号館1階中会議室(107号室)
	懇談会	退職教授懇談会	18:00～	工学部2号館展示室
文学部	講演会及びシンポジウム	講演会: 「文学の明日を考える」 講演者: 菅野昭正文学部名誉教授(フランス文学)・文芸批評家、世田谷文学館館長  シンポジウム: 「現代文学における「私」をめぐる」 パネリスト: 菅野昭正、安藤宏(日本文学)、柴田元幸(現代文芸論、英米文学)、野崎敏(フランス文学、司会者兼)	15:30～18:00	法文2号館 一番大教室
理学部	展示・ビデオ上映	“AMBITION(志)化学者 池田菊苗”のビデオ上映	10:00～18:00	理学系研究科1号館1階及び2階小柴ホール
農学部	講演会	未定	15:20～16:30	フードサイエンス棟中島ホール
	懇親会	懇親会	16:30～18:00	フードサイエンス棟エントランスホール
経済学部	講演会	講演会「演題: 未定」経済学研究科教授 三輪 芳朗	14:30～16:00	経済学研究科棟 第1教室(地下)
	懇親会	懇親会	16:00～17:00	経済学研究科棟 コミュニティラウンジ(1階)
教育学部	講演会	講演会「編み直し・脱集計化・脱中心化——「白熱教室」JAPANで目指したもの」	16:00～17:00	教育学部156教室
	懇親会	懇親会	17:15～19:00	生協第2食堂
薬学部	薬友会総会及び講演会	薬友会総会講演会 ①松尾壽之(独)国立循環器病研究センター研究所名誉所長 ②清水敏之(教授・薬学系研究科・蛋白構造生物学教室)	16:00～18:00	医学部講堂(医学部1号館1階)
	懇親会	懇親会	18:00～	薬学部大会議室(薬学系研究科総合研究棟10階)
情報理工学系	講演会及び懇談会	講演会(富士通株式会社・堀田耕一郎氏)および懇談会	15:00～17:00	理学部7号館007教室
情報学環	講演会	講演会「大震災」	17:00～20:00	福武ホール
	展示	学生らの研究発表の展示		
	懇親会	同窓生、関係者による懇親会		
公共政策大学院	懇親会	懇親会	17:00～19:00	法学政治学系総合教育棟
地震研究所	講演会	東日本大震災に関連するテーマ	未定	地震研究所内の会議室又はセミナー室
	展示	未定	未定	地震研究所内のラウンジ
	懇親会	名誉教授懇談会、地震研究所OB(名誉教授)と教員との懇談	未定	地震研究所内の会議室
社会科学研究所	講演会	講演会・展示「大震災と日本の再生」	15:00～18:30	赤門総合研究棟5階会議室、社会科学研究所1階コミュニケーションスペース
	展示			
	懇親会			
生産技術研究所	講演会・展示・懇親会	検討中	13:00～18:00	工学部2号館機械系会議室、セミナー室1、セミナー室A
附属図書館	展示	総合図書館貴重書展「江戸 いきもの彩々」	9:00～18:00(土日曜、祝日含む)	総合図書館3階ロビー
総合研究博物館	展示	常設展示「キュラトリアル・グラフィティ—学術標本の表現」	10:00～17:30(入館17時まで)	総合研究博物館
駒場	オープニングセレモニー及び演奏会	・駒場キャンパスオープニングセレモニー ・教養学部選抜学生コンサート	12:30～14:30	21KOMCEEレクチャーホール 駒場コミュニケーションプラザ北館2階 音楽実習室
	講演会及びキャンパスツアー	・駒場友の会主催 イベント内容調整中	14:30～16:00	駒場コミュニケーションプラザ北館2階 多目的教室
	展示	・駒場博物館特別展「一高ノ獨逸 —第一高等学校資料に見る日独交流史—」	10:00～18:00	駒場博物館
	展示	・駒場図書館企画展「一高ノ獨逸 駒場図書館編」	10:00～19:00	駒場図書館
	建物内ツアー	・21KOMCEE施設見学(自由)	10:00～18:00	21KOMCEE
数理科学研究科	講演会	講演題目:「未定」数理科学研究科 儀我美一教授	16:00～17:00	数理科学研究科大講義室

# NEWS

## 一般ニュース

### 一般 救援・復興支援室 各自治体へ義援金をお届け

本学で募集を行った「東日本大震災にかかる義援金」は、学内外の多くの方々の温かいご支援により、総額1千2百万円余となった。この義援金は、救援・復興支援室長である前田正史理事が5月13日（金）から8月3日（水）までの間に岩手県、宮城県、福島県、茨城県、釜石市、遠野市、大槌町の各首長等に、以下のとおりお届けした。

届け先：岩手県 金額：2,000,000円	届け先：宮城県 金額：2,000,000円
届け先：福島県 金額：2,000,000円	届け先：茨城県 金額：2,000,000円
届け先：遠野市 金額：1,000,000円	届け先：釜石市 金額：1,000,000円
届け先：大槌町 金額：2,185,238円	合計 12,185,238円



義援金目録を橋本昌茨城県知事に手渡す前田理事

なお、義援金の受付については、6月22日（水）をもって締切り、新たに「東京大学東日本大地震に関する救援・復興支援プロジェクト基金」が設立された。

救援・復興支援プロジェクト基金は、本学の被災施設や学生等に対する支援活動及び被災地でのボランティア活動の支援等を目的としておりますので、以下のURLをご参照いただき、引続きご支援を賜りますようお願いいたします。

<http://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt13.html>

### 一般 海洋アライアンス

海のない地域の子どもたちに海の面白さを —山梨県富士川町立鯨沢小学校にて出前授業を開催

7月21日（木）、海洋アライアンス（機構長 浦環生産技術研究所教授）は、山梨県にある富士川町立鯨沢小学校（望月真校長）に赴き、1、2年生の子どもたち40名を対象に海に関する出前授業を行った。

鯨沢小学校は、江戸時代に富士川舟運の要衝地として栄えた旧鯨沢町にある。当時の鯨沢河岸は下げ米・上げ塩を扱う流通拠点として知られていた。特に上げ荷の中心は、塩をはじめとする海産物であり、山間地にあっても海との関わりの深い町だったことがうかがえる。

今回の出前授業を引き受けたのは海洋アライアンスの福島朋彦特任准教授である。終業式を翌日に控えたなかでの授業だったが、担任の笠井寿美香先生のはからいで、子どもたちといっしょに給食を食べることから始まったため、教壇に立つ頃にはすっかりリラックスすることができたようであった。



出前授業で使用したパワーポイントの表紙

最初に、国語の授業で学習したスイミーの内容に合わせて、「にじいろのゼリーみたいなナマコ（教科書の記載はクラゲ）」、「ブルトナーのようなえび（いせえび）」、「かいそうのはやし」などを写真を使って紹介すると、聞き覚えのある言い回しだったせいか、子どもたちは「わー、わー」と声をあげて喜んでいました。

子どもたちの緊張がほぐれたところで海の生き物の解

説に移った。空飛ぶイカはいるか、ホンソメワケベラのように他の魚を掃除するエビはいるか、クマノミのお父さんはお母さんが死んでしまうとどうなるか、などいずれも国語の教科書にある「サンゴの海の生きものたち」に登場する生き物を選んでクイズ形式で解説した。海の生き物の意外な生態について、解説だけでは信じられなかった子どもたちも、証拠のビデオをみると納得の表情を浮かべていた。そして最後20分を使って、1年生と2年生の混同6チームによるクイズ大会を行った。対抗戦形式だったため、学年を越えて協力する子どもたちの様子が随所に見られ、講師には微笑ましく映った。優勝チームには講師オリジナルの「海のいきもの博士認定証」が渡された。



海のいきものクイズの様子

数日後、子どもたちから手紙が届いた。「とおいところからきてくれてありがとうございます」、「イカがとぶなんてはじめてでした」、「またいっしょにきゅうしょくをたべてください」、なかには講師の体を気遣い「ねっちゅうしょうにならないでください」といった内容まで、いずれも心温まるものばかりだった。

## のびゆく子

級小1学年だより  
No.19  
平成23.8.3発行

**暑中お見舞い申し上げます**

夏休みが始まって10日ほどたちました。台風6号と共にそれまでのうだるような暑さもどこかへ行ってしまったようで、この夏は、例年に比べるとだいぶ過ごしやすそうですが、皆様いかがおすごしでしょうか？

25日から5日間の学習会にはのべ53人（1日平均10.6人）もの1年生が参加して、1学期の復習をがんばりました。「なんばんめ」や「くつつきのや・ゆ・よ」などの間違いやすっきり見直すことができたと思います。水泳教室にも5人が参加し、早く練習をがんばりました。中には手を漕げなくても小プールの中央まで泳げるようになった人もいます。

中略

**東京大学海洋アライアンスによる出前授業  
「海の生き物あれこれ」**

終業式前日の7月21日、東京大学から福島朋彦准教授をお招きして、出前授業を行いました。昼に到着したので、1年教室で2班の人たちと一緒に給食を食べさせていただきました。

「福島先生は子どもの頃から、魚がすきだったんですか？」

「子どもの頃は、虫取りが大好きだったよ。」

「先生のうちは海のそば？」

「子どもの頃から〇〇っていう海のそばに住んでいるよ。」



後日、送付された学級通信（抜粋）

海洋アライアンスでは、海洋生物から海洋資源まで、多岐にわたる出前授業を用意して、海にも山にも出かけます。詳しくは海洋アライアンスホームページをご覧ください。

海洋アライアンスホームページ：

<http://www.oa.u-tokyo.ac.jp/>

**本部留学生・外国人研究者支援課**

「平成23年度第1回外国人留学生支援基金奨学生」及び「平成23年度長島雅則奨学基金奨学生」証書授与式開催される

教職員ならびに卒業生の方々からの寄附金で運用されている「外国人留学生支援基金」は、平成23年度第1回奨学生（奨学金月額5万円／支給期間：平成23年4月～平成24年3月）として20名（うち10名は「長島雅則基金」による奨学生）の外国人留学生を採用、また、「長島雅則奨学基金」は9名の日本人学生を海外派遣奨励費受給者として採用した。両方の奨学生に対し、7月25日（月）に奨学生証書授与式が開催された。



謝辞を述べるバログン オルクミさんと山崎奈都子さん

式は、田中明彦副学長（留学生支援基金運営委員会委員長）、杉山健一副理事（渉外担当）、長島雅則氏（寄付者）の臨席の下、田中副学長並びに長島雅則氏から奨学生に証書が授与された。

田中副学長からは「本奨学金は教職員、卒業生の方々からの寄附金により支給されるものである。優秀な留学生の皆さんには、研究・勉学の成果を期待している」との激励があり、長島雅則氏からは「奨学生のみなさんがこれからの世界をリードしてくれるものと期待している。自分のやりたいことに挑戦して行ってほしい」との挨拶があった。

引き続き、奨学生を代表して、医学系研究科修士課程のバログン オルクミさん（ナイジェリア）から、「東京大学の多くの方に支えられて勉学に打ち込める機会を得られたことに感謝します」との謝辞が述べられ、法学部の山崎奈都子さんからは、「今後の世界を担っていく世代として、一度日本を外から見つめ直し、その強み・弱みを意識しながら留学期間を過ごしていきたい」と海外留学への意気込みが語られた。

なお、外国人留学生支援基金奨学金受給者は、前身の外国人留学生後援会から通算して今回で350名となった。

ここに本基金の趣旨にご賛同いただいている皆様のご支援に対し、改めて御礼申し上げる次第である。



「東京大学外国人留学生支援基金平成23年度第1回奨学生」及び「長島雅則奨学基金奨学生」一同

**国際本部**  
**日本語教育センター2011年度夏学期「集中日本語コース・学術日本語コース」修了式が行われる**

日本語教育センターの2011年度夏学期「集中日本語コース・学術日本語コース」修了式（修了証書授与式）が、8月4日（木）15時30分から医学部総合中央館（医学部図書館）3階333会議室で行われた。

センターでは種々の日本語コースを開講しているが、このうち「集中日本語コース」は、初級から上級までの留学生が1学期間集中的に日本語を学ぶコース、「学術日本語コース」は日本語で論文を書くための日本語スキルを身につけるコースで、この両コースについては修了式を行っている。今期は、震災の影響で留学生の渡日が遅れる傾向があったため、センターではこれに配慮し、両コースの開始を5月、修了を8月と、それぞれ例年より遅らせたが、両コースあわせて8クラス、57名の受講者が所定の課程を修了した。



集合写真

式には、修了者のほか、田中明彦副学長をはじめ、来賓として修了者の指導教員である勝村庸介先生（工）、大山茂生先生（工）、作田庄平先生（農）の各先生、佐藤修二国際部長、及びセンター関係教職員が出席した。田中副学長から、挨拶の中で「今後も、日本語とセンターで得た友人を大切にしよう」とのメッセージがあった後、菊地康人日本語教育センター長から、修了者一人ひとりに修了証書が手渡され、あわせて、今期の到達水準や出席率の高さなどを評価する講評が述べられた。

続いて、修了者を代表して、ローハス・メナンツロ・デラクルーズさん（フィリピン、情報理工、初級代表）、ラチャナ・マナダル・スレスタさん（ネパール、医、中級代表）、ソウ・ホンボムさん（韓国、法、上級代表）の3名から日本語によるスピーチがあり、約3か月間の日本語のすばらしい上達ぶりが披露された。

式終了後、引き続き山上会館で懇談会が行われた。田中副学長と、修了者の指導教員である小紫公也先生（工）から留学生に向けてのスピーチがあり、さらに、修了者4人からのさまざまな思いをこめたスピーチや、教員を囲んでの写真撮影など、くつろいだ雰囲気の中に会は進行し、終了時間が来ても修了者たちが別れを惜しんで立ち去ろうとしないほどの、印象深いパーティーとなった。

なお、今期の修了者57名の所属・出身は、以下のとおり、12研究科等、26の国または地域である。

■研究科等（12研究科等）

教育学研究科	1名
法学政治学研究科	6名
経済学研究科	2名
総合文化研究科	4名
理学系研究科	1名
工学系研究科	20名
農学生命科学研究科	4名
医学系研究科	2名
薬学系研究科	1名
新領域創成科学研究科	3名
情報理工学系研究科	8名
学際情報学府	5名

■国または地域（26カ国・地域）

・アルジェリア	1名	・チュニジア	2名
・インドネシア	2名	・ネパール	1名
・英国	3名	・パナマ	1名
・オーストラリア	2名	・パプアニューギニア	1名
・ガーナ	1名	・フィリピン	1名
・韓国	7名	・ブラジル	5名
・カンボジア	1名	・フランス	1名
・ギリシャ	1名	・ベトナム	2名
・ケニア	1名	・ポーランド	1名
・スウェーデン	1名	・マレーシア	2名
・タイ	5名	・モンゴル	1名

・台湾	2名	・レバノン	1名
・中国	10名	・ロシア	1名



修了証の授与



修了者代表のスピーチ

## 部局 ニュース



大学院農学生命科学研究科・農学部

樹芸研究所クスノキ林「ふるさと文化財の森」に設定される

農学生命科学研究科附属樹芸研究所（静岡県賀茂郡）のクスノキ林が平成22年度の「ふるさと文化財の森」として文化庁より設定され、設定書交付式が5月26日（木）に行われた。「ふるさと文化財の森」は、文化庁のふるさと文化財の森システム推進事業の一環として、国宝、重要文化財などの文化財建造物の修理に必要な資材供給のためのモデル林及び研修林として設定される。附属演習林としては秩父演習林のサワラ林に続き2箇所目となる。

現在、樹芸研究所にのこるこのクスノキ人工林は、およそ100年前に樟脳生産のために松崎町の事業家により造林された。当時、樟脳はセルロイドの原料として重要視されていたが、その後樟脳生産が行われなくなり放置され、現在に至る。そのクスノキを、修理用資材として文化財保護に活かすことは、森林と共にあった日本文化の側面を支える一面を持ちながら、不要となれば放置する現代の人間社会の在り方を見つめ直す一面も持ち合わせている。通常の木質資源生産で重視される規格化・効率化とは異なる視点を持って森林経営に当たることは、結果的に多面的な森林の取り扱いを重視することにつながり、大学演習林ならではの柔軟な森林経営の足腰を鍛えることになるだろう。その様な思いを込めて、真摯に森林管理に取り組んでいきたい。



クスノキ人工林（外観）

大学院人文社会系研究科・文学部

外国人留学生・研究員等との懇親会  
開催される

部局

6月23日(木)18時から、山上会館地下食堂において、恒例となっている人文社会系研究科・文学部主催の外国人留学生・研究員及び外国人スタッフとの懇親会が開催された。

懇親会には、人文社会系研究科及び文学部に在籍する13カ国の外国人留学生・研究員、留学生博士論文作成支援ボランティア・ネットワークである「三金会」の先生方及び教職員の計93名が参加した。

初めに中地義和人文社会系研究科長・文学部長から挨拶があり、続いて鶴岡賀雄国際交流委員会委員長の発声で乾杯した後、懇談が始まった。

懇談は、終始和やかな雰囲気につつまれて進み、途中には「三金会」の先生を代表して、久野猛氏から活動状況等をふまえた留学生とのエピソードを中心に心温まるご挨拶があった。また、恒例となっている留学生のパフォーマンスタイムでは、韓国からの留学生による韓国語の歌の熱唱があり、参加者から大歓声が沸き上がった。最後に留学生を代表して、博士課程に在籍している韓国の尹勝玫(ユン スンミン)さんから大変流暢な日本語で、研究室の先輩との交流話についてユーモアを交えた挨拶があった。

普段は研究活動に忙しい学生・研究員のみなさまも、この日ばかりはそれぞれのお国の言葉と日本語を混ぜながら、お国自慢を語り合って友好を深めあう楽しいひと時を過ごし、20時頃盛況のうちに散会した。



留学生を代表しての尹勝玫さんのスピーチ



懇親会を記念して



中地研究科長・学部長の挨拶

生産技術研究所

部局

「イノベーション基盤シミュレーションソフトウェアの研究開発」第3回シンポジウムを開催

7月14日(木)・15日(金)の2日間、「みえてきた先端シミュレーションの実力」と題して、イノベーション基盤シミュレーションソフトウェアの研究開発プロジェクトの第3回シンポジウムが生産技術研究所コンベンションホールにおいて開催され、当日は大変暑い日であったが、延べ489名にのぼる参加があった。

初日は、文部科学省大臣官房審議官(研究振興局担当)戸渡速志氏とスーパーコンピューティング技術産業応用協議会副委員長(日本自動車研究所副理事長・研究所長)小林敏雄氏の挨拶に続き、富士通株式会社テクニカルコンピューティングソリューション事業本部エグゼクティブアーキテクト奥田基氏による基調講演とプロジェクト代表の加藤千幸教授並びにプロジェクトの各チームリーダーによる講演が行われた。6月にTop500のランキン

グで世界一となった京速<sup>けいそく</sup>コンピュータ「京」<sup>けい</sup>についての内容は参加者からも大きな関心が寄せられた。2日目には各ソフトウェアの代表的な活用事例13例が産業界の技術者・研究者によって報告され、残り2年間のプロジェクト期間で、ソフトウェアの実証と産業界での利用をどのように完成させていくのかなど、プロジェクトの終盤に向けて開発者側と利用者側の協力の重要性を再認識するシンポジウムとなった。



基調講演を行う奥田基氏

大学院農学生命科学研究科・農学部  
秩父演習林がサントリーと研究・整備協定を締結

農学生命科学研究科は7月27日（水）に、サントリーホールディングス株式会社と、附属演習林秩父演習林を対象とした研究助成および森林整備に関する協定を締結した。

本協定は、森林が抱える問題の解決に向けて幅広く継続的な研究・教育を進めてきた本学と、水源涵養活動を工場水源源流地域で積極的に推進してきたサントリーが、両者の知見を活かし、より高い水源涵養機能を持続的に発揮できる森づくりを協働して実施していくものである。協定は、附属演習林秩父演習林の全域（5,812ha）を対象とし、長期的な観点にたった研究協定と、同演習林栃本地区の一部である入川流域（1,918ha）を対象とする森林整備活動を協働して進めるための森林整備協定からなる。

両者は、対象地区を水源涵養林としての高い機能を持った森林、生物多様性に富んだ森林、洪水・土砂災害等に強い森林、CO<sub>2</sub>吸収能力の高い森林、豊かな自然と触れ合える森林に誘導することを目標に活動を実施する。具体的には、航空機を使ったレーザー測量、奥地にあり手入れの行き届かない造林地と原生林へのアクセス開設、不成績造林地の天然林への誘導、シカなどの生物害対策、植生回復、シカの移動、植生と水文・水質の関係、樹木の機能特性、材の搬出および活用、森林整備体験・環境教育等の研究および森林整備活動を展開していく。契約期間は5年であるが、特別な問題がないかぎり、5

年契約の更新により50年100年と継続できるようになっており、数十年単位の長期的な視野に立った研究と整備を展開する。長期的な研究計画に基づいて、毎年の研究課題を学内から広く公募する。

両者は、このような産学連携型の森林整備および研究活動が今後さらに拡がりをもって展開されることを期待し、これらの活動の成果を積極的に公開し情報発信していく。



7月27日に行われたサントリーとの協定締結式

先端科学技術研究センター  
新エネルギー研究開発拠点「環境エネルギー研究棟」の竣工式

産学官で新エネルギー開発に取り組む共同研究施設「環境エネルギー研究棟」の竣工記念式典が8月25日（木）、先端科学技術研究センターで行われ、東大や企業関係者約120名が出席した。新棟は、低炭素社会の実現に向けて高効率・低コストの太陽光電池開発などを推進するため、JX日鉱日石エネルギー株式会社との共同研究施設「ENEOSラボ」やエネルギー・環境分野の瀬川研究室（瀬川浩司教授）など、先端研の新エネルギー関連の研究室などが入居し、先端研と企業の研究者が共同研究を推進する中核施設となることが期待される。

中野義昭所長は式辞で「3月11日の東日本大震災以降、これまでのエネルギー戦略の抜本の見直しが迫られている。エネルギーの確保の仕方、新技術による革新が今ほど求められているときはない。産学の研究者が共同で顔の見える連携活動を進め、地に足のついた次世代エネルギー技術の開発を進めていきたい」と抱負を述べ、濱田純一総長は「低炭素社会の実現は世界的な課題。各種新エネルギー技術の総合的な研究開発が産業界との強固な連携のもとで進められ、その成果が広く社会に還元されることを大いに期待している」と挨拶した。

また、JX日鉱日石エネルギー（株）木村康社長は「新エネルギー分野に携わる研究者が、産学官の壁を超えて、国際規模で活動できるこの研究拠点の建設に貢献できたことをうれしく思う。これをきっかけに先端研の方々とますます交流を深め、技術開発に努めてまいりたい」と祝辞を述べた。中野所長、濱田総長、木村社長、文部科

学省の澤川和宏学術機関課長、経済産業省の大家利彦産業技術人材企画調整官、NEDOの和坂貞雄理事がテープカットをして竣工を祝い、瀬川教授が新棟の概要を説明した。

新棟には大学と企業の研究者がより連携を図りやすくするため、「集中研究室」を設置し、情報共有や共同研究を推進する。国家プロジェクトである「革新的な太陽電池の開発」や電力貯蔵デバイス、環境科学に関連する基礎研究など、環境とエネルギーに関する研究を総合的に進める。さらに、海外の大学・研究機関と協定を結ぶなどして連携を強化、新エネルギー分野の国際研究拠点となることを目指す。

4、5階には、先端研内に平成21年に設置された「ENEOSラボ」を拡充、移転。面積は従来の約2倍、常駐するJX研究員も今後増員する予定で、革新的太陽電池や高容量蓄電材料などの研究開発に取り組む。新棟は、鉄筋コンクリート7階建てで延床面積は約7124㎡。建設資金の一部を寄附するなどして貢献したJX日鉱日石エネルギー(株)にちなみ、1階のホールは「ENEOSホール」と命名された。



竣工記念式典で式辞を述べる中野義昭所長



竣工記念式典で挨拶する濱田純一総長



関係者がテープカットをして  
環境エネルギー研究棟の竣工を祝った

## あなたの撮った写真を 学内広報や東大Facebookページに 載せませんか？

学内広報では教職員の皆さんが撮影した写真を募集します。  
あなたも自らの写真の腕を学内で披露してみませんか？

### ■応募条件

#### 1. 東大のキャンパス内で撮影した写真であること

本郷に限らず、東大の敷地内ならどのキャンパスでも可。また、キャンパス内で撮った写真であれば、風景写真でなくても可。人、動物、モノが写った写真でもかまいません。

#### 2. デジタルデータで送付すること

撮影はデジタルカメラ、あるいはカメラ付き携帯電話で行い、デジタルデータ(jpeg、tifのいずれか)をメール添付で送ってください。

#### 3. 1回の応募につき3枚まで受付

多量の写真データ送付はご遠慮ください。  
(添付ファイルの合計容量は5MBまで)

### ■掲載基準&掲載方法

学内広報編集スタッフが独断と偏見に満ちたセレクション(笑)を行い、スペースの空いたページに掲載します。掲載の際には、「作品名」と「撮影者」のクレジットを記載します(匿名希望も可)。また、良い写真が多数集まった場合は、応募写真を紹介する特集、応募写真を紹介する連載なども予定しています。

(また、ご投稿いただいた写真を東大Facebookページにも掲載させていただきます可能性があります)

### ■締切

特にありません。良い写真が撮れたら送ってください。

### ■送付先

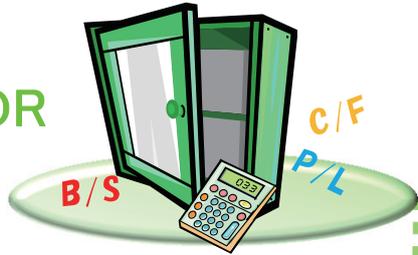
本部広報課広報企画チーム

「学内広報写真募集係」まで。

E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

# 決算のDOOR

～数字が語る  
東京大学



## 第12回 決算書の裏側

国立大学法人の「損益計算書 (P/L)」は、一年間に大学でかかった経費と大学の財源となる収益を示しています。その対象は、大学で繰り上げられる教育、研究、診療の活動の結果で、費用勘定科目 (〇〇費)、収益勘定科目 (〇〇収益) によって毎日記録されます。

例えば…

「おはよう！」研究室の電気をパチンとつけた (光熱水料) A先生、午前中の講義資料を印刷し (印刷製本費)、急いで講義室に向かいます。週末清掃したのか (保守費) 廊下はピカピカで今にも滑りそう。奥の会議室では天井板を剥がして雨漏りの修理中 (修繕費)。講義中、少々音が気になりました。午後は来週開催のシンポジウム (諸会費) について他大学の先生とメールと電話による打ち合わせ (通信運搬費)。夕方、注文した実験装置が届きました (備品費)。「先生、きましたか」動作確認のため、助教のB君がのっそり顔を出しました。4月入学の院生 (授業料収益) の指導後、来週の出張申請 (旅費交通費)を終え、研究室を後にしたA先生。外はもう真っ暗です。「はあ、やれやれ。そういえば今日は17日だったな」給料日 (人件費)の1日はこうして終わりました。

こんな日常の1コマ1コマの積み重ね一年分が「損益計算書」に集約されるのですが、反映される数値は、あくまで大学で行われた活動、行為の結果要した会計上の数値です。どんな素晴らしい成果につながろうと、そこに至るまでの努力や過程は数値で表すことができないのです。

ただし、中には過去の数値と比べることで浮かび上がる過程もあります。下は過去3年間の東京大学の水道料金表です。都内有数の大口水道需要家でもある本学の (単位 百万円)

水道料金は、年間およそ10億円。でも年を追うごとに安くなっていることがわかります。この差額は二つの節減対策の結果なのです。

まずは施設部による既存井戸のリニューアル。実験や研究で水道の使用量が特に多い部局で、本郷キャンパス内にある井戸水を一部利用することで、毎年3千万円の節減になりました。二つ目は医学部附属病院による大型受水設備 (下写真) の導入です。高性能の浄水装置を用いて井戸水を浄水に変え、診療用に使用を開始。これにより水道料金の単価 (円/m<sup>3</sup>) が公共水道より245円程安くなり、年間4千万円近い水道料金の削減に繋がりました。



経済性だけでなく、患者さんにより安全な給水を供給しています

こうした教職員の方達の日々の地道な努力は決算書の数値にははっきりと現れることはありませんが、決算書の裏側でひっそり息づき、大学の教育・研究・診療活動を今日もしっかりと支えているのですね。(青)

本部財務部決算課 (内線22126)

E-mail: kessanka@m1.adm.u-tokyo.ac.jp

◆このコラムは一見複雑な国立大学法人会計をわかりやすくご紹介することを目的とし、文章の読みやすさを重視しているため、ある程度恣意的な表現を取ることがあります。あらかじめご了承ください。一ご意見、ご質問お待ちしております！

# インタープリターズ・ バイブル vol. 50



科学技術インタープリター養成プログラム

## 「伝えること」

真船 文隆

大学院総合文化研究科 教授  
教養学部附属教養教育高度化機構  
科学技術インタープリター養成部門

2010年10月16日土曜日、東京メトロ有楽町線で車両故障が発生し、一時間ほど不通になった。車両故障による電車の遅延など日常よくあることで、報道各社も気合が入っていないのは明らかで、その時の各社の報道(抜粋)はさまざまであった。「9両目パンタグラフから煙が出ているのを同電車の車掌が見つけ、同社に通報した。」

「9両目のパンタグラフ付近にある空調ダクトから煙が出ているのを車掌が発見、同社に通報した。」

「新木場発和光市行き普通電車(10両編成)の屋根から煙のようなものが出ているのを、車掌が発見した。」

「停車中の列車から発煙があり、同線と副都心線が約10分間運転を見合わせた。」

これだけを読み比べても、9両目のどこで発煙があったのか各社まちまちである。全体を見通すと、「停車中の列車で、9両目のどこかで発煙があり、車掌が見つけて通報した」というのが報道したかったことのように見える。

実際は少し異なっている。車両が有楽町駅を出発し桜田門駅に近づきつつある走行中、車両の天井付近で大きな破裂音がした。同時に、天井の換気パネルの穴から、黒いすすと埃が落ちて床一面に降り積もった。土曜日の朝8時過ぎであったので、その車両には10名程度の乗客しかいなかったが、しばし呆然と様子を眺めたのち、我に返って危険を回避するためにほかの車両に移って行った。間もなく桜田門の駅に着いたが、運転士や駅員は全く気付いた様子はなく発車しようとしたため、乗客が駅員に通報して電車を止めた。

2010年秋には横浜でAPECが開催され、この事故が発生したのはちょうどその開催一週間前であった。都内も含めて警備態勢がひかれ、都内の地下鉄でも警備中を呼びかけるポスターが掲示されていた時期である。その当時、現場に居合わせた私は、この事故がどのように報道されるのか注視した結果が上記のとおりである。軽微な車両故障に関する報道だが、これが科学に関する報道だとしたら、大きな問題となったかもしれない。

科学技術インタープリタープログラムのけん引役である大学院総合文化研究科教授の黒田玲子先生は、情報を発信する際に「何を伝えるか、どう伝えるか」が大事であるということをおっしゃられる。また、伝聞情報をつぎはぎするだけでは誤った発信になりかねないから、必ずその一次情報までさかのぼることの重要性も強調される。科学技術にとどまらず、どんなささいな情報でも、こういう姿勢は大切だろう。

★科学技術インタープリター養成プログラム

<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>



## 産学連携本部組織のご紹介

# 産学連携課

産学連携部は、産学連携本部が行う共同研究推進、知的財産の管理と活用、事業化支援等の活動の支援および全学の産学連携に関する活動を推進、支援することを業務とした本部事務組織であり、産学連携本部長が産学連携部長を兼任しています。

産学連携課は産学連携部に属しており、総務チーム、企画チーム、知的財産マネジメントチームの3チームで構成されています。

総務チームは、産学連携本部所属教職員の人事労務関連、産学連携本部の活動に伴う会計管理、施設管理業務や産学連携部の庶務全般、産学連携研究推進部と連携して「科学技術交流フォーラム」などの各種イベント関連業務、また、事業化推進部と協力して、大学発ベンチャー企業の支援業務など広範囲な業務を担当。企画チームは、産学連携に関する諸規則の制定・改廃、各種研究契約等の法務チェック及び契約交渉等を知的財産部と協力し担当。知的財産マネジメントチームは、知的財産部、

東京大学の産学連携体制は、産学連携研究推進部・知的財産部・事業化推進部と産学連携課、そして、連携関係にある(株)東京大学TLOと、(株)東京大学エッジキャピタルによって構成されています。今回は、当本部の事務部隊として、本学の産学連携をバックアップする、産学連携課の植田清実課長にお話を伺いました。

および東京大学の技術移転機関である(株)東京大学TLOと協力して、職務関連発明の特許出願関連、知的財産の管理・活用、発明等補償金の配分業務等を行っています。

産学連携課職員は、多くが35歳未満の若手職員ですが、大学で生み出された研究成果を移転可能な形(知的財産)に変換して社会に還元するお手伝いができるということで、積極的に業務に取り組んでいます。また、共同研究契約の増加等に伴い業務量が増えてきておりますが、これらに対応すべく、縁の下の力持ちとして課全体で取り組んでおります。



産学連携プラザ

下記にご紹介するように、知的財産権に関する基礎知識を身につけていただくことを目的とした研修なども、全学の教職員を対象として定期的に開催しています。これらの研修を通して、大学の研究や研究契約締結の円滑化を図り、本学の教育・研究の推進に寄与していきたいと思っております。研究契約等で困ったことがありましたら、お気軽にお声かけください。



知的財産部  
峯崎 裕主幹

### 特許

特許法の目的は、発明の保護と利用を図り、「産業の発達に寄与する」というところにあります。発明の保護は、特定の条件を満たした発明について特許権という独占的な権利を付与し、一定期間、発明を事業として実施することを独占させる仕組みにより達成されます。特許を取る一番の目的は、事業を守るということにあり、実際に世の中で使われて初めて意味があるのです。では、どんなものが特許になるかといいますと、従来技術にない新しいもの、それで何らかのメリ

ットがある場合に特許になる可能性があると考えてください。その意味では、大学における技術論文は、特許の宝庫ということもできます。問題は、その技術の特許として出願しても事業として活用できるかという点にあります。大学にとっては事業化の視点が不足しがちであり、そのままでは埋もれてしまうこともあります。その意味で、研究を企業と共同で行い成果を共同出願する場合は、事業化の視点が補われ、大学の知を社会貢献できる形に変換することが期待されます。

### 産学連携活動



知的財産部  
小蒲 哲夫部長

東京大学の産学連携活動は平成15年から本格的に行っています。産学連携本部は全学唯一の組織で、総長のもとに松本洋一郎理事、その下に産学連携本部長がおられて、産学連携研究推進部、事業化推進部、知的財産部と産学連携課で構成されています。当本部のひとつの大きな特徴としては、(社)日本経済団体連合会の協力を得て、産学連携協議会を運営し、情報交換、情報提供を行っていますが、特に副会長レベルの方々に集まっていたり、大学の教育研究経営に関する意見を頂戴し、それを大学の運営に反映させています。知的財産部はさまざまな規則類を作り、個々の案件の最終決定をする管理主体、(株)東京大学TLOは実務を行う運用主体として、知的財産の管理・活用面において本学の産学連携を推進しています。



知的財産マネジメントチーム  
板倉奈緒美係長

### はじめの一歩

教職員の方に知的財産について興味を持っていただきたいという思いから、平成20年度に知的財産研修を企画し、今回4回目の開催となりました。先生方の優れた研究による成果を権利化し、社会に還元し、それによって得られた収入を基に更に質の高い研究に取り組んでいただくために、産学連携課では知的財産の「創造」「保護」「活用」という知的創造サイクルをうまく機能させるための支援をしています。

## Activity Report

6月27日に行われた「知的財産研修」の講義内容をご紹介します。当日は学内の各局局から約45名が参加。「知的財産権」「特許」「著作権」「東京大学の産学連携活動」について、熱心に耳を傾けました。



(株)東京大学TLO  
山本 貴史社長

### 東京大学TLOの活動

大学の技術が製品とかサービスになってどれくらい売れているかについていえば、米国における産学連携の経済効果は約10兆円。納税者に対するアカウントビリティの説明としても使われています。日本でもアメリカでも、大学の研究費は税金です。税金を大学に投入することで多くの経済効果を生み、景気が良くなり、なおかつ雇用が生まれている

のです。大学の研究が産業界に移転され、社会に貢献しているところでの評価が高いのが米国です。成功を収めている世界の産学連携事例を見て

ます。例えばスタンフォード大学は黒字化するのに15年、MITは10年かかっています。ノウハウがあってもやはり10年はかかるということです。そういう意味では、国立大学が法人化された2004年から考えると、東大も2015年くらいには良い数字を出していきたいところです。東大の取り組みについていえば、日米の大学の発明届け出数を見ると、東大はずっとトップを保っています。特許を取ることに、研究者の意識が高いのが本学の特徴です。弊社は東大の皆さんのエージェントだと思っていますので、不明な点はどんなことでもお問い合わせをいただければと思います。

連絡先：産学連携本部（本部産学連携課）  
電話：内線22857（外線03-5841-2857）  
WEBサイト：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

DUCR

検索



※このページでは、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースをお届けします。

東アジア首脳会合枠組み

第一回エネルギー効率化会議

## ロードマップを踏まえた政策形成を

近年の発展途上国に関するホットイシューのひとつにエネルギー需要の急速な増加が挙げられます。東アジアでは再生可能エネルギー以上に、エネルギー効率化の余地が大きいと認識されています。

政策ビジョン研究センターでは、東アジアASEAN 経済研究センター (ERIA、本部ジャカルタ) より、エネルギー効率化ロードマップ・プロジェクト (Energy Efficiency Roadmap Formation Project) の依頼を受けて、昨年 11 月より調査・研究活動を進めています。今年は東アジア首脳会合の枠組みの下で、8 月 24 日 (水)、ラオスの首都ビエンチャンにおいて開催された第一回エネルギー効率化会議に招待を受け、活動成果の中間報告をしました。

本会議は、政策担当者、学者、エネルギーや経済開発の専門家、民間企業が領域を超えて集まり、東アジアのエネルギー効率化の問題について、政策への理解を深め、各国の知識や経験を共有し、将来の可能性を議論する機会を提供することを目的としたものです。

同会議には、ERIA、アジア開発銀行、国際エネルギー機関等の国際機関、アジア十数カ国から 200 名以上が出席しました。本センターからは、プロジェクト代表である、坂田一郎教授および城山英明センター長、

吉澤剛 特任講師、佐々木一特任研究員、山口健介特任研究員の 5 名が参加しました。

会議はラオスの Mr. Soulivong Daravong エネルギー鉱物大臣の開催挨拶で始まり、オープニングリマークとして、経済産業省の

### 効率化への将来シナリオ

本プロジェクトメンバーは本会議でこれまで実施してきた調査研究の報告を行いました。

我々の報告内容は、ラオスに対し、主に 3 つのシナリオを挙げ、その組み合わせによって今後のエネルギー効率化ロードマップを策定していくことを提案するものです。

1 つはキャッチアップシナリオです。これは、今後年間 8% の経済成長を目標に掲げるラオスが、安定的な国内電力供給を展開しつつ、先進国に追いつくことを優先させるシナリオです。このシナリオでは、送配電網や盗電などのロス削減を重要事項として提案します。次に貧困削減シナリオです。同国の目標として 2020 年に最貧国脱出を掲げていることを背景に、国全体の電化率向上を優先事項とするシナリオです。小水力発電や太陽光発電といった再生可能エネルギーをオフグリッドへ展開するといった提案が挙げられます。最後に挙げるのが外貨獲得シナリオとなります。ラオスが ASEAN のバッテリーとなるべく、近隣諸国への電力の輸出入を外貨獲得の手段とすることに重点を置いたシナリオです。長期的な政策としては、高圧直流送電などの低損失の送配電システムも十分考慮に入れるべきであると考えます。

これら 3 つのシナリオを枠組みとし、相互のトレードオフを考慮し相乗効果を狙うことが望ましいと考えています。

朝日審議官より、東アジア各国におけるエネルギー効率化にむけて知識と経験を共有し相互協力していくことが必要であるとのアピールがなされました。



講演する吉澤剛 特任講師。

本会議では、エネルギー効率化に向けた挑戦と機会、エネルギー効率を高めるためのメカニズム、エネルギー効率化に向けた技術と民間セクターの役割、エネルギー効率化ロードマップ・プロジェクトをテーマとした 4 セッションが設けられました。

本センターは、このうち第 4 セッションを担当し、吉澤特任講師による発表のほか 4 名からの発表とパネルディスカッションを行いました。吉澤特任講師からは、ラオスにおけるエネルギー効率化に関して、技術ロードマップと技術アセスメントを手法として用いた、将来シナリオの提案を致しました。

会議では、参加者による議論や意見交換にもとづきエネルギー効率化の意義と促進の重要性の認識が一層深まり、今後の会議の継続的開催も提案されました。本会議を受け、ERIA の西村英俊事務総長より、東アジアの持続可能な経済発展のため、エネルギー効率化に対し多角的に向上させてゆくべく、今後の一層の貢献が表明されました。

本会議の結果は、近々ブルネイで開催される第 5 回東アジアエネルギー大臣会合にて報告されることになっています。



東アジア首脳会合の枠組みの下で開かれた第一回エネルギー効率化会議には、アジア十数カ国から政策担当者、学者、企業等多彩な顔ぶれが集まった。

<http://pari.u-tokyo.ac.jp>

## Asian Diversity No.11 by ASNET

### 「日本・アジア学」講義紹介 『アジアでがんを生き延びる』

感染症の克服や目覚ましい経済発展により、高齢化社会にあるアジアは、がんの急増に直面している。がんという病は、遺伝的素因や生活習慣などの違いによる地域性の強いものであり、多様な文化的背景をもつアジアのがんの姿を捉えることは難しい。

本講座を受け持つ赤座英之研究室は、アジアのがんの特性を欧米と比較検討することで、アジアを中心とした新規薬剤開発や安全かつ有効な治療法の開発を研究している。

本講座では、疾病に関する科学的知識よりも、この重い共有課題をどうアジアとともに乗り越えるべきなのか、アジアのがんに纏わる様々な問いを投げかけ、毎回外部講師を招き、語りを重ねている。各分野の第一人者の方たちの確かな眼差しは、学知の世界にはない具体性をもち、そこに通底する普遍性を分野を越えて考えることは、新しい知の構築にも繋がっていく。

毎回、様々な切り口で、アジアのがんという事柄が、語られていくことを、小さな教室の中で、その息遣いまでもじっと耳をすませ聞いていく学生は、問われるべきことは何なのか、それぞれの専門領域にひきよせて、問いを立てて、講師と対話をする。がんは、長い歳月を経たひとのくらしの営みの中にある。科学的データだけでは読み解けぬ、この重い共有課題を考えていく道筋を探り当てることは、アジアと日本はどう向き合って生き延びていくのかという問いにも開かれていく。

生命科学がさまざまな知の統合を目指している今、領域を越えた視点の広がりこそが、アジアのダイナミズムのなかで、われわれが生き延びる智慧を紡いでいくはずである。



学生の質問に答える、野木森雅郁アステラス製薬(株)代表取締役会長(7月22日授業風景)  
文・写真:河原ノリエ

『アジアでがんを生き延びる』講義は冬学期も開講します。  
詳しくは、  
<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/edu/>

日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET機構)は、アジアのことを広く、深く知りたい学生の皆さんに研究科等横断型「日本・アジア学」教育プログラムも実施しています。詳しくは下記のURL:

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

### 3.11東日本大震災発生！その後



3.11すっぱい思い出

主に事故災害や防災を担当しています。よって3.11は本番中の本番でした。災害対策本部の設置場所の山上会館へ走り、開催中の会議を中止にさせていただいての設置準備、次は備蓄倉庫の開錠でしたが、鍵を本部棟11Fに忘れて取りに戻りました。そして倉庫を開けようとしたら鍵が間違っていました(ガーン)。再度取りに階段を上り、その後病院や消防署・駅を回り、両ふくらはぎが吊っている状態での「リアカーで物資を運ぶから応援頼む」との指示あり(ガーン)。今後はとにかく落ち着いて行動したいと思います。

その後は24時間体制での放射線測定のための泊り込み、一般の方などから放射線関係の相談電話対応の日々が続き(現在も継続中)、対応のため勉強の日々です。

東京大学に採用されて以来、フットサルが趣味になり、月に一度やっています。



環境安全本部関係者での歓送迎会にて

得意ワザ：低速トリプルシザース(フットサル)

自分の性格：俗物

次回執筆者のご指名：新井喜洋さん

次回執筆者との関係：2007年新潟中越沖地震で東大病院日本DMAT隊として実際に医療活動した仲間

次回執筆者の紹介：災害医療に情熱を燃やす  
熱血ナースマン!

■新商品紹介

★旅するウナギ-1億年の時空をこえて-  
¥3,990(税込)

総合研究博物館にて展示されている、「鰻展覧会-この不可思議なるもの-」の図録です。ウナギの誕生から成長。また、食べ合わせや美術絵画までと、東京大学の研究をまとめた一冊です。どうぞご覧下さい。



地震研究所

2011年度版 ★世界震源地図 (A2)

日本語版・英語版2種

★日本震源地図 (A2)

★世界震源地図ペンタグローブ

★世界震源地図クリアファイル

各¥300(税込)

¥300(税込)

¥350(税込)

¥400(税込)



地震研究所による、2011年度版世界震源地図(日本語版・英語版2種)、日本震源地図、ペンタグローブ、クリアファイルがリニューアル販売開始しました。

地図上に地震の震源がプロットされています。これは、最近30年間で起きたマグニチュード5以上の地震を全て描いたものです。

\* 売上の一部は、地震・火山噴火による被災地支援に役立てられます。

地震研グッズご購入の方には、地震について詳しく書かれた、「地震研究所 謎解き地震学」の冊子を差し上げます。



コミュニケーションセンター販売棚のレイアウトです。

■スタッフお薦め商品★



文学部 社会心理4年 濱田 大樹



赤門マウスパッド ¥735(税込み)

こんにちは！  
UTCCスタッフ4年目になりました、濱田です。  
今回、僕がお薦めするのは「赤門マウスパッド」です。  
このマウスパッド、小さな写真を何枚も並べて赤門を形づくっているのですが、この写真を1枚1枚よく見ると、東大構内の写真なんです。建物、場所など全て分かったらあなたも東大マスター！（？）  
...冗談はさておき。人の目の特性を考えた工学部での研究によって生まれたこの商品をはじめ、UTCCには東大での研究を活かしたものが沢山あります。  
ぜひ一度店内をご覧になって下さい！  
スタッフ一同お待ちしております！

担当：UTCC三浦



東京大学コミュニケーションセンター  
The University of Tokyo  
Communication Center

The University of Tokyo

OPEN：月曜～土曜 10：00～18：00  
電話：03-5841-1039  
http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

～救援・復興支援室より～

■救援・復興支援室の活動(8月～9月)

- 8月3日・・・各自治体への義援金お届け完了  
⇒詳細はP7参照
- 8月31日・・・登録プロジェクト更新(新規2件)
- 8月～9月・・・ボランティア隊活動
  - 第1班 8月3日～7日
  - 第2班 8月9日～13日
  - 第3班 8月24日～28日
  - 第4班 9月3日～7日
  - ※9月4日 総長がボランティア隊を激励
  - 第5班 9月18日～22日

プロジェクト登録件数  
**78件**  
2011年8月31日現在

■救援・復興支援室の活動の詳細はウェブサイトをご覧ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index_j.html)

■救援・復興支援室

Email: [kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kyuenfukkou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)  
内線：21750

平成23年度  
学内広報 発行スケジュール

号数	原稿〆切	発行日 (校了)	配布
1418	10月28日(金)	11月24日(木)	11月30日(水)
1419	学生生活実態調査号		
1420	11月24日(木)	12月16日(金)	12月22日(木)
1421	1月 5日(木)	1月 25日(水)	1月 31日(火)
1422	1月 31日(火)	2月 23日(木)	2月 29日(水)
1423	2月 29日(水)	3月 26日(月)	3月 30日(金)

都合により変更になる可能性がありますので最新のスケジュールは下記URLよりご確認ください。

ご寄稿の際は、以下のURLにある「記事提出要領」をご参照ください。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)

問い合わせ先・原稿提出先

本部広報課 広報企画チーム  
TEL:03-3811-3393 内線 82032  
E-mail: [kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)



# INFORMATION

## シンポジウム・講演会

### シンポジウム・講演会

大学院理学系研究科・理学部

#### 第20回理学部公開講演会「理学が拓く未来」 の開催

理学の魅力を伝えるため平成14年に始まった東京大学理学部講演会も回を重ねること20回を迎えました。今回は、分子から個体レベルまでの理解を目指す植物学、原子の謎に迫る物理学の最前線を走る研究者による講演に加え、震災を経た社会における基礎科学研究のありようを考えるパネルディスカッションを行います。さらに、講演に先立って、声楽家による音楽会を開催します。

日時：10月30日（日） 13：00～17：30  
（12：00開場）

会場：本郷キャンパス 安田講堂

入場：無料 事前申し込み不要  
どなたでもご参加いただけます。

定員：700名（当日先着順）

講演内容：

「反物質」

早野龍五（理学系研究科物理学専攻 教授）

「子どもの頃の興味から始まって、実際に植物学者になるまでの話」

塚谷裕一（理学系研究科生物科学専攻 教授）

パネルディスカッション：

司会 横山広美（理学系研究科広報・科学コミュニケー  
ション 准教授）

音楽会：

菊地美奈（ソプラノ）二期会会員  
（他出演）

飯田俊明、牧千恵子、ミヤック

演奏予定曲

「アメージング・グレイス」「私のお父さん」ほか

中継：インターネット配信を予定

主催・問い合わせ先：

大学院理学系研究科・理学部広報室

TEL：03-5841-7585

E-mail：kouhou@adm.s.u.tokyo.ac.jp

URL：http://www.s.u.tokyo.ac.jp/PL20

## お知らせ

### お知らせ

国際化推進学部入試担当室

#### 「平成24年度学部英語コース特別選考募集要 項」の公表のお知らせ

このたび「平成24年度学部英語コース特別選考募集要項（The University of Tokyo, College of Arts and Sciences, Programs in English at Komaba (PEAK) APPLICATION GUIDELINES for October 2012 Enrollment）」が決定し、8月1日（月）より、以下のWebサイトから募集要項がダウンロード出来るよう整備されました。

<http://peak.c.u-tokyo.ac.jp/>

また、平成24年度の募集人員、出願資格、出願期間、選抜方法等の概要は次ページの別表のとおりです。

なお、本特別選考の実施に関し、8月1日（月）に教養学部において英語による記者説明会が実施されました。

## 平成24年（2012）年度 学部英語コース特別選考

平成24(2012)年10月から、英語による授業のみで学位が取得できるコースを設置する。

東京大学

実施学部等	<p>教養学部          国際日本研究コース（後期課程3・4年）          国際環境学コース（後期課程3・4年）          ※前期課程1・2年次は、教養学部国際教養コースで学修する。</p>
募集人員	各コース 若干名 ※入学日は平成24(2012)年10月1日
出願資格	<p>平成24(2012)年9月30日までに、次のいずれかの基礎資格を取得（取得見込みの者を含む。）し、かつ、要件を満たしている者とする。</p> <p>1. 基礎資格</p> <p>(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者又は通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）</p> <p>(2) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者のうち次の各項目の一に該当する者</p> <p>ア 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの</p> <p>イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者</p> <p>ウ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者</p> <p>エ 文部科学大臣の指定した者（昭和23年5月31日文部省告示第47号）</p> <p>オ 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧大学入学資格検定に合格した者を含む。）で平成24(2012)年9月30日までに18歳に達するもの</p> <p>カ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成24(2012)年9月30日までに18歳に達するもの</p> <p>2. 要件</p> <p>基礎資格を取得した時点からさかのぼって連続する12年のうち、前半の6年中最低5年間、かつ、後半の6年中最低5年間を主に日本語以外で教育を受けた者。</p> <p>ただし、飛び級等により、12年に満たない場合については、出願資格審査において、実質的な同等性について判断する。</p>
選抜方法等	出願書類及び面接等により選考を行う。
出願期間	平成23(2011)年10月3日(月)から平成24(2012)年1月6日(金)まで
選考時期	平成24(2012)年1月から3月
合格発表日	平成24(2012)年4月25日(水)
その他	<p>本コースの詳細及び募集要項は、平成23(2011)年8月1日(月)以降、以下のWebサイトに掲載する。</p> <p><a href="http://peak.c.u-tokyo.ac.jp/">http://peak.c.u-tokyo.ac.jp/</a>          照会先：東京大学国際化推進学部入試担当室  <a href="mailto:int.admissions@m1.adm.u-tokyo.ac.jp">int.admissions@m1.adm.u-tokyo.ac.jp</a></p>

## お知らせ

### 情報基盤センター

「はじめての論文の探し方」、新RefWorks関連コース、留学生向け総合図書館オリエンテーション（英語）など“情報探索ガイダンス”各種コース実施のお知らせ

講習会に参加して、文献の探し方・Webでの文献管理方法を、マスターしましょう！

情報基盤センター図書館電子化部門では、定期的に、“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

10月は、バージョンアップを間近に控えた文献管理ツール「RefWorks」新バージョンの講習会や、留学生向けに英語によるオリエンテーションを総合図書館と共催で開催するなど、各種コースを実施します。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

※英語コースもあります。留学生のみなさんにもお声かけください。

※自宅からの利用方法はどのコースでも説明します。

情報探索ガイダンス 2011.10

# 論文の探し方

ガイダンス

自宅から検索するには？  
10/5 (水) 12:10～12:30

はじめての論文の探し方  
10/12 (水) 15:00～16:00

新 RefWorks2.0 (文献管理ツール) を使うには？  
10/20 (木) 15:30～16:30

EndNote Web (文献管理ツール) を使うには？  
10/21 (金) 15:30～16:30

東京大学にご所属の方ならどなたでも参加できます。  
各コース定額15名、参加費無料、予約不要。  
パソコンを使って実習します。  
ECCSの無線LAN対応PC持込もOKです。

情報基盤センター学術情報/ラーニング係  
library@itc.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2649(内線27649)  
http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html  
http://twitter.com/gacos\_tds @univtkp

#### ■ 10/5 (水) 12:10～12:30

##### 【自宅から検索するには？】(20分ワンポイント講習)

自宅からデータベースや電子ジャーナルを使う方法だけ知りたい。そんな方にお奨めなのがこのコース。

ECCSアカウント認証によるSSL-VPN Gatewayサービスを紹介します。

#### ■ 10/12 (水) 15:00～16:00

##### 【はじめての論文の探し方】

「文献検索は初めて」という初心者向けにゆっくりと、文献リストの読み取り方、図書、雑誌、日本語論文

(CiNii)、英語論文(Web of Science)の基本的な探し方を実習します。

#### ■ 10/20 (木) 15:30～16:30

##### 【新RefWorks2.0 (文献管理ツール) を使うには？】

これからRefWorksを使ってみようという方向けに、Web版の文献管理ツール「RefWorks」の使い方を説明します。

東京大学OPACや、CiNii (日本語論文)、Web of Science (英語論文) など代表的なデータベースからのデータの取り込み方と、参考文献リストの自動作成方法を実習します。

※10月末にバージョンアップする「RefWorks2.0」の講習です。旧バージョンでご利用中の方は原則受講不要ですが、興味のある方はご参加ください。

#### ■ 10/21 (金) 15:30～16:30

##### 【EndNote Web (文献管理ツール) を使うには？】

これからEndNote Webを使ってみようという方向けに、Web版の文献管理ツール「EndNote Web」の使い方を説明します。

東京大学OPACや、CiNii (日本語論文)、Web of Science (英語論文) など代表的なデータベースからのデータの取り込み方と、参考文献リストの自動作成方法を実習します。

※RefWorksとの相違点はこちらをご参照ください。

[http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/utonly/enw\\_refw.html](http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/utonly/enw_refw.html) (このページは学内アクセス限定)

#### ■ 10/25 (火)

##### 【留学生向け総合図書館オリエンテーション】(英語)

###### “General Library Library Tour in English”

October 25 (Tue.)

16:00 - 16:30 OPAC Course

16:30 - 17:00 Library Tour

It is not necessary to attend all 2 courses. Participants can join each course of 30 minutes.

The OPAC Course is an introductory course to online catalogs and e-journals. (This session offers a hands-on approach by using computers.)

The Library Tour will show you not only its rich collections but also materials and facilities provided for you, such as foreign newspapers, foreign TV, and computers.

No advance reservation is required. Free of charge.

Please come to the General Information Desk of the General Library (Hongo Campus) before the scheduled time.

●会場：本郷キャンパス総合図書館1階講習会コーナー (各回先着15名) ※Windowsパソコン15台あり。ECCS

無線LAN設定済みのノートPC持込もOK。

●参加費：無料

●予約不要

※上記の他に、中国語による講習会も実施します。  
(参照：別記事「中国語で講習します！留学生のための  
「はじめての論文の探し方」ガイダンス」)

★授業・ゼミ・学生グループなど対象にオーダーメイド  
で講習します！

論文の探し方の出張講習・オーダーメイド講習を随時  
受付中です(無料)。授業やゼミの内容に合わせて講習  
いたします。会場のことなど、ご相談に応じます。まずは  
お気軽にお問い合わせください。どのキャンパスでも、  
学生だけのグループでもOKです。

過去の実施例は以下のURLでご覧いただけます。  
(<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>)

★Litetopiメールマガジン発信中！

本学所属の方を対象に、データベースのニュースや講習  
会のご案内などをお届けします。配信ご希望の方は、  
下記アドレスまでメールでご連絡ください。(無料)



[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

●お問い合わせ：

学術情報リテラシー係 03-5841-2649 (内線：22649)

[literacy\\*lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy*lib.u-tokyo.ac.jp)

(\*は@に置き換えて送信してください。)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

(ツイッター [http://twitter.com/gacos\\_todai](http://twitter.com/gacos_todai))



## お知らせ

生産技術研究所、大学院総合文化研究科・教養学部

### 第7回 駒場キャンパス技術発表会開催のお知らせ

生産技術研究所ならびに総合文化研究科・教養学部共  
催の技術発表会を、下記の通り開催いたします。招待講  
演に大気海洋研究所・技術専門員・塚本久美子氏、同研  
究所・技術専門職員・石垣秀雄氏、李雅利氏をお招きし  
て「紹介します！大気海洋研究所」と題して講演をお願  
いしておりますので、ふるってご来聴ください。また、  
発表会終了後に懇親会を開催いたしますので併せてご参  
加ください。

記

#### 【技術発表会】

日時：10月12日(水) 9:30~17:00

場所：駒場Ⅱリサーチキャンパス 総合研究実験棟  
(An棟)・コンベンションホール

#### 《口頭発表》

「駒場キャンパスの放射線量について」教養学部・総合  
文化研究科 技術専門職員 滝澤勉

「全反射配置における核共鳴散乱X線のエバネッセント  
場観測」生産技術研究所 基礎系部門 技術専門職員  
河内泰三

「EMS粘度計と私のその後 -EMS法の躍進-」生産  
技術研究所 基礎系部門 技術職員 平野太一

「RTK-GPS実機使用によるフィールドワーク安全教育  
について」生産技術研究所 機械・生体系部門 技術専  
門職員 吉田善吾

「1970~2011：技術職員の仕事から」生産技術研究所  
機械・生体系部門 技術専門員 板倉博

「赤外分光を用いたゼラチンの乾燥過程に関する研究」  
生産技術研究所 情報・エレクトロニクス系部門 助教  
大塚由紀子

「教養学部低温サブセンター業務紹介」教養学部・総合  
文化研究科 技術職員 石坂彰

「個別研修等報告 建設に関する資格について」生産技  
術研究所 人間・社会系部門 技術専門職員 大塚日出  
夫

「東京管区气象台の風観測データに関する一考察」生産  
技術研究所 人間・社会系部門 技術専門員 高橋岳生

#### 《招待講演》

「紹介します！大気海洋研究所」

東京大学大気海洋研究所 共同利用共同研究推進セン  
ター 陸上研究推進室 技術専門員 塚本久美子、  
同観測研究推進室 技術専門職員 石垣秀雄、  
同観測研究推進室 技術専門職員 李雅利

## 【懇親会】

日時：10月12日（水） 17：30～19：30  
会場：駒場Ⅱリサーチキャンパス 総合研究実験棟  
（An棟）・コンベンションホール前ホワイエ  
会費：1,500円  
今回は催し物として藤井陽一・高羽禎雄 東大名誉教授  
（元生研3部教員）などの方々のフルートと琴の演奏を  
企画しております。皆様のご参加をお待ちしております。  
（お問い合わせ）  
第7回 駒場キャンパス技術発表会実行委員会委員長  
高野早苗  
TEL：03-5452-6344（内線：56344）  
E-mail：tabo@iis.u-tokyo.ac.jp

## お知らせ

### 情報基盤センター

中国語で講習します！  
留学生のための“はじめての論文の探し方”ガイダンス

情報基盤センター図書館電子化部門では、中国人講師  
による「留学生のための“はじめての論文の探し方”ガイ  
ダンス」を開催します。

内容は、レポート・論文作成に役立つ、データベース  
を使った図書や雑誌論文の検索実習です。入門的な内容  
ですので、新入学の留学生に限らず、初心者の方の参加  
も歓迎します。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どな  
たでも参加できます。ぜひご参加ください。

## ●講習内容

- ・図書の探し方
- ・電子ジャーナルで雑誌論文を入手する方法
- ・中国語論文の探し方（CNKI）
- ・日本語論文の探し方（CiNii）
- ・英語論文の探し方（Web of Science）
- ・自宅からデータベースや電子ジャーナルを使う方法

## ●会場：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー

## ●日時：10/19（水）15：00～16：00

詳細は下記のサイトをご覧ください。（中国語）

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/c/training-c.html>

## ●参加費：無料

## ●予約不要

先着15名。直接ご来場ください。

## ●問い合わせ：

情報基盤センター 学術情報リテラシー係

03-5841-2649（内線：22649）

[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

留学生向け情報授業ガイダンス 2011.10

# 留学生 論文検索入門指南講座

使用語言  
**中文**  
Chinese

**10/19** (星期三)  
**15:00~16:00**

免费

会场 ⇒ 本郷校区 総合図書館 1F 講習会角

通过鼠标上机操作,掌握如何利用数据库,再查找写作指南与论文时所需参考文献

研讨会主要内容

- 数据库所在: 东大图书馆 OPAC, Wechat
- 查找学位论文: 东大图书馆 OPAC, 在东大图书馆可利用的电子期刊检索, Wechat
- 查找关于某一主题的论文

中文论文: 中国期刊全文数据库 (CNKI)  
日文论文: CiNii  
英文论文: Web of Science

● 如何从鼠标使用数据库和电子期刊

无需事先申请  
定员 15 名  
(以到达先后为序)

本郷校区  
General Library  
综合图书馆

Main Gate Akamon

咨询处  
[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp) 03-5841-2649  
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/c/index-c.html>  
东京大学信息基盤中心 学術信息管理科

GACOS 講習会

平成23年度冬学期総合図書館備付け図書の  
推薦について

総合図書館では、学生の学習・研究を助け、また教養をより豊かにするために、全学の教員（常勤講師以上）から図書を推薦していただく制度を設けております。

つきましては、平成23年度冬学期に向けて下記のとおり図書の推薦をお願いいたします。

記

1 推薦の範囲

- (1) 講義に密着した図書は、本郷キャンパスの講義を対象とします。
- (2) その他、学生の教養書としてふさわしいものをご推薦ください。  
ただし、雑誌および学生にとってあまりに高度な専門図書は除いてください。

2 推薦締切り

講義に密着した図書は、10月31日（月）  
その他の図書の推薦は常時受け付けます。

3 推薦方法

総合図書館備付け図書推薦要領によります。  
※推薦要領は、各部局図書館（室）に備付けております。

4 問合せ先

附属図書館情報管理課選書受入係  
内線：22626  
e-mail：sen@lib.u-tokyo.ac.jp

\*附属図書館Webサイト

(<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>)  
上記サイトの「ニュース」にある「総合図書館備付け図書の推薦について（10/1）」もご参照ください。

高木昭作名誉教授

本学名誉教授、元史料編纂所長高木昭作先生は、7月10日、肝不全のため逝去されました。享年75歳でした。

先生は、1936年3月29日、愛媛県北宇和郡三間町（現宇和島市）にお生まれになり、その後東京都立小石川高等学校を経て、1959年、本学文学部国史学科を卒業されました。1965年5月、人文科学研究科国史学専門課程の博士課程を退学、同年6月に史料編纂所に入所されてからは、『大日本史料』第十二編の編纂・出版を担当されました。1976年に助教授、1982年教授に昇任され、その間一貫して江戸時代初期を対象とする史料の編纂と研究に尽力されています。

1989年から91年まで先生は史料編纂所長を務められ、本学評議員を併任されました。また、1993年より文学部教授、1995年より大学院人文社会系研究科教授を併任されています。1996年、博士（文学）の学位を取得され、同年に本学名誉教授の称号を授与されています。停年退職された後、帯広大谷短期大学の学長に就任され、また2000年から2006年までは放送大学教授として教鞭を執られました。ほかに公職としては、文化審議会での委員も務められています。

先生は、史料編纂所で三十年にわたり、『大日本史料』十二編の編纂に心血を注がれ、その研究成果によって近世史の研究を主導されました。日本史研究の基幹的史料集である『大日本史料』の刊行事業は、百年以上継続されてきたものですが、そこで高度な内容の質を保ちつつも、新たな知見を盛り込んで学界に提供する



ということが可能となったのは、ひとえに先生の高度な研究力量と惜しみない献身的な努力によるものと言えましょう。先生はこの「十二編」の編纂には、その四十四巻から五十三巻まで長きにわたって従事しておられ、この成果が先生のご研究の土台をなすことになりました。それに加えて、出講された大学院で後進の指導にあたられ、ゼミの場で厳密な史料読解を全面的にお示しになることによって、研究水準の向上に大きく寄与されました。

先生の主著としては、『日本近世国家史の研究』（岩波書店、1990年）、『江戸幕府の制度と伝達文書』（角川書店、1999年）、『将軍権力と天皇』（青木書店、2003年）が挙げられます。浩瀚な一次史料の博搜にもとづき、堅固な史料操作の上に比類ない読解能力を縦横に駆使され、まったく斬新な論点を示して研究状況を刷新される、そうした点が高木先生のご研究の特色でした。幕藩制国家の特質を武士の軍隊が支配した「兵営国家」とみてシェーマ化した点や、近世の国家的身分編成と諸「役」賦課の対応関係の発見、当時の社会意識上における天皇中心の伝統的神国観がもった規定性といった研究史上著名な論点のほかにも、近世古文書学を構築する必要性を説かれた新しい史料学の見地などがあり、およそこの時代を扱う研究者であれば知らない者はいないほどです。先生は、こうした新しい研究視角の提示によって、近世史研究の全体像をイノベーションされたのです。

晩年の先生のお仕事からは、思わしくない健康にもかかわらず、なおも研究上の前進を続けようとしていた姿勢がうかがわれます。開拓された新境地の全貌があらわされることなく、とうとう不帰の人となられたのは、まことに残念なことでありました。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（史料編纂所）

## 人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退職）			
23.8.31	二通 信子	辞職	国際本部教授
23.8.31	TABLERO VALLAS FRANCISCO JAVIER	辞職	教養学部附属教養教育高度化機構准教授
（採用）			
23.8.16	不破 麻紀子	社会科学研究所准教授	
23.9.1	向井 留実子	国際本部教授	愛媛大学国際連携推進機構准教授
（昇任）			
23.9.1	小谷 潔	大学院新領域創成科学研究科准教授	大学院新領域創成科学研究科講師
23.9.1	田中 潔	大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター准教授	大気海洋研究所助教

※ 退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

### = 特集テーマ&執筆部署募集告知 = 特集の記事を執筆してみませんか？

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集はとても効果的です。皆さんの部署でも、ぜひ特集の記事を執筆してみませんか？

#### 1. 制作方法

##### ① テーマの選定

全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することとしています。  
まずは、本部広報グループに気軽にご相談ください。特集に馴染まないテーマでない限り、対応します。  
(締切日の1カ月前位までに一度ご相談ください)

##### ② 内容・構成の決定

執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。  
見開き2ページを1単位とします。内容が盛りだくさんの場合は4ページ、または6ページで構成することもあります。

##### ③ 原稿の執筆

決定した構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。  
字数等は編集スタッフが提示します。原稿はwordファイルでご制作下さい。

##### ④ ビジュアル要素の提供

特集に盛り込む写真・図・イラストを執筆部署から提供していただきます。  
手持ちの写真がない場合は編集スタッフが撮影にうかがいます。

##### ⑤ デザイン

お書きいただいた原稿、ご提供いただいた写真・図等を素材にして、編集スタッフがページデザインを作ります。  
もちろん、執筆部署でデザインを作っていただいてもかまいません。

##### ⑥ 校正

デザインしたページイメージをお送りしますので、主に文字校正を行なっていただきます。

##### ⑦ 完成

刷り上がった学内広報は、執筆部署に多めに配布します。

#### 2. 締切日

こちらから期日を申しますので、ご協力をお願いします。  
通常の学内広報×切日の数日前を原稿締切日とします。

#### 3. 問い合わせ先・原稿提出先

本部広報課 広報企画チーム TEL：03-3811-3393 内線：82032 E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

# Contents

## 特集

- 02 **Todai Forum 2011 フランスで「知の際」に迫る**  
04 2011東京大学ホームカミングデイの楽しみ方

## NEWS

### 一般ニュース

- 07 **救援・復興支援室**  
各自治体へ義援金をお届け
- 07 **海洋アライアンス**  
海のない地域の子どもたちに海の面白さをー山梨県富士川町立鯉沢小学校にて出前授業を開催
- 08 **本部留学生・外国人研究者支援課**  
「平成23年度第1回外国人留学生支援基金奨学生」及び「平成23年度長島雅則奨学基金奨学生」証書授与式開催される
- 09 **国際本部**  
日本語教育センター2011年度夏学期「集中日本語コース・学術日本語コース」修了式が行われる

### 部局ニュース

- 10 **大学院農学生命科学研究科・農学部**  
樹芸研究所クスノキ林「ふるさと文化財の森」に設定される
- 11 **大学院人文社会系研究科・文学部**  
外国人留学生・研究員等との懇親会開催される
- 11 **生産技術研究所**  
「イノベーション基盤シミュレーションソフトウェアの研究開発」第3回シンポジウムを開催
- 12 **大学院農学生命科学研究科・農学部**  
秩父演習林がサントリーと研究・整備協定を締結
- 12 **先端科学技術研究センター**  
新エネルギー研究開発拠点「環境エネルギー研究棟」の竣工式

## コラム

- 14 **決算のDOOR ～数字が語る東京大学 第12回**
- 14 **インタープリターズバイブル vol.50**
- 15 **Crossroad～産学連携本部だより～vol.70**
- 16 **Policy + alt vol.24**
- 17 **ASIAN DIVERSITY No.11**
- 17 **Relay Column「ワタシのオシゴト」 第67回**
- 18 **コミュニケーションセンターだより No.80**
- 18 **救援・復興支援室より No.4**

## INFORMATION

### シンポジウム・講演会

- 19 **大学院理学系研究科・理学部**  
第20回理学部公開講演会「理学が拓く未来」の開催

### ◆表紙写真◆

「アントロポメトリア」連続写真、2010年、撮影：UMUT。  
『Anthropometria - Mode et Science par UMUT et Naoki Takizawa』展  
【2～3ページに関連記事】

## お知らせ

- 19 **国際化推進学部入試担当室**  
「平成24年度学部英語コース特別選考募集要項」の公表のお知らせ
- 21 **情報基盤センター**  
「はじめての論文の探し方」、新RefWorks関連コース、留学生向け総合図書館オリエンテーション（英語）など“情報探索ガイダンス”各種コース実施のお知らせ
- 22 **生産技術研究所、大学院総合文化研究科・教養学部**  
第7回 駒場キャンパス技術発表会開催のお知らせ
- 23 **情報基盤センター**  
中国語で講習します！ 留学生のための“はじめての論文の探し方”ガイダンス
- 24 **附属図書館**  
平成23年度冬学期総合図書館備付け図書のおすすめについて

## 訃報

- 25 高木昭作名誉教授

## 事務連絡

- 26 人事異動（教員）

## 淡青評論

- 28 知の迷路より知の王道を

## 編集後記

この場を借りてお知らせさせていただきます。9月末より、コミュニケーションセンターにて東京大学オフィシャルネクタイの販売がスタートしました。大学オリジナルのネクタイが欲しいという声を受け、さまざまな問題（デザインってどうするの？価格ほどのくらいのもの？そもそも「淡青」の色って？）に直面しながら、いろいろな方のお力をお借りして、1年近くの年月を経てようやく発売にこぎつけました。そんなわけで、既にコミュニケーションセンターの担当は外れましたが思い入れはひとしおです。お値段は8800円とやや高めですが（でも銀座田屋の製品にしてはかなりお買い得なのです…）東京大学にふさわしい上質なネクタイになりました。是非いちどお店でお試しください。（ふ）



七徳堂鬼瓦

## 知の迷路より知の王道を

私が7年前に着任した研究室は世界最初に創設された植物病理学の研究室で、今年105年を迎えた。初代の白井光太郎教授は、植物学、本草学、考古学にも造詣深く、弥生土器の発見でも知られる。若くしてドイツ留学した。

最近の若者は海外に出なくなったと言われる。その責任はシニア世代にないだろうか。昔は学位取得後も同じ教授のもとで下積みを続け、職を得たのち海外留学し帝王学を学んだとも聞く。私の時代には、学位取得後も同じ研究室で給料をもらえる制度があった。昔の奨励研究員制度である。教授からある程度独立して研究でき、ライフワークについて熟考出来た。私は2回奨励研究員に採用され、2回目の途中で助手（現在の助教）になり留学した。

しかし、今は学位取得時とは別の受入研究者のもとへ移籍しないと給料をもらえない。いわゆる特別研究員制度で、採用は1回だけである。当然、親元で「艱難難事を玉にし」独り立ちする経験は味わえない。定職を求め知の迷路をさまようことになる。帝王学を学ぶ（我々の世界で言えば歩むべき知の王道にたどり着く）しぐみが消えてしまった。最近はそれを嫌い、研究者への道を捨ててしまう若者も多い。昔に比べ若手ポストが激減した状況では定職を得ても雑用を放置し留学できる雰囲気ではない。ポスト制度の元祖米国では海外留学は必要性が低いし、国内で移籍したのちも元のポストが就職の面倒を見るのが慣習のようだ。

また、科学研究費補助金に応募できる「若手」の定義が高齢化し、42歳までという例も出てきた。昔なら中堅だ。研究費も高額ではない。同時に、定年延長や退職者向けの特任ポスト創設により超大型研究費のシニアグラント化が進んだ分野では、採択された代表者のもとにポストを求め「若手」がさまよう。高等教育研究機関のこのような分野は「若手」が踏み込むことをためらう知の迷路と化している。解決策の一つとして、一定の研究費を長期にわたり保証する「永年教授・永年研究者」制度を設け、シニア研究者を審査・選抜して生涯現役として手本となり尊敬され助言を求められる役職に位置付け、「若手」に知の王道を譲りやすくしてはどうだろうか。異論もあるだろうし、もっと良い方法があればそれを選択すればよい。より多くの若者に知の王道を目指して欲しい。その鍵はシニア研究者の手中にある。

難波 成任（大学院農学生命科学研究科・農学部）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報室の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報室までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報課を通じて行ってください。

No.1416 2011年9月26日

東京大学広報室

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報課

TEL：03-3811-3393

e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

<http://www.u-tokyo.ac.jp/>